

基盤技術高度化へ

13

動きだす中小支援策

金属に魂を入れる。金属材料を加熱、冷却する(こと)で、材料自体の耐久性、耐摩耗性などを高めるのが熱処理加工。焼き入れ、焼き戻し、浸炭焼き入れ、窒化など種類は幅広い。目には見えにくい技術だが、その存在価値は高い。自動車、家電、建設機械などの部品製造をはじめ、金属製品、輸送機など幅広い工業領域で必要になる基盤技術で、マザーテクノロジーとも呼ばれる。この熱処理技術も17分野の支援対象の一つとして、特定ものづくり基盤技術の指定を受けた。

わが国の熱処理加工業は川下から川上まで多層

める。金属熱処理業界は高度な熱処理や小ロット品、短納期品への受注対応が以前からの課題で、リードタイム、コスト、精度などユーザーとなる川下産業の高い要求に 대응(こと)により、業界各社は技術力に磨きをかけてきた。

経済産業省が示した熱

〈熱処理技術〉	
技術開発課題のポイント	
○ 高度化・高付加価値化	
○ IT化	
○ 環境配慮	

熱処理加工 川下と連携強化がカギ

新素材 新加工法導入もテーマに

構造を形成する。業界のほとんどを中小企業が占めた指針案では①高度化・高付加価値化②IT化③環境配慮の3点を高度

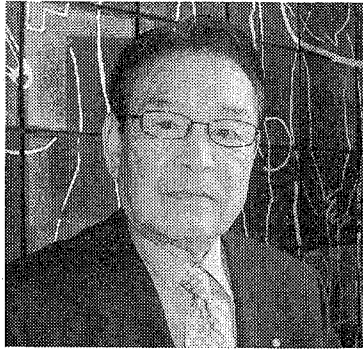
技を携えた先端技術

「わが国の熱処理技術の力は。」「世界の中で高いレベルにあると認識している。わが国の熱処理は古くからの技を携えた先端

技術である。とくに量産に向けた管理技術は世界をリードしている。ただ一点、高圧ガスを使う新しい冷却技術の開発で欧州に後れをとっている。

日本金属熱処理工業会会長

岩本 成郎氏に聞く



量産に向けた管理技術は世界をリードしている...と岩本さん

IT駆使し 技高める

スキル向上へ人材育成

「基盤技術の一つとして熱処理が注目されています。今後、業界が果たす役割は。」

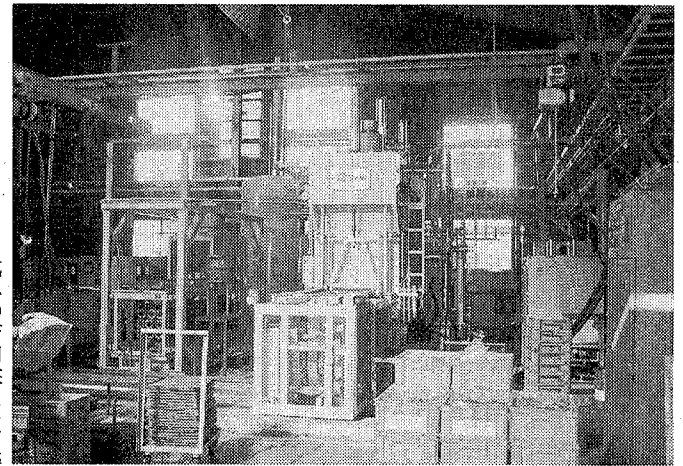
「常に大手企業より一歩先の技術を手掛け、大手をしのぐ技術集団にならないければならない。川下産業のユーザーが製品をつくり込むには、設計や材料の選定に始まり、優れた熱処理技術が必要。熱処理は重要な役割を担っている。業界として、その責務を果たしていく」

「熱処理技術の高度化には、人材育成も大きな課題です。」

「技術の高度化に向けて、学術的な知識、熟練の技、さらにこれにITを駆使する力を取り入れた、ハイブリッドスキルが求められる。業界団体として、こうした人材の育成に努めていく」

(大矢修一)

最大のユーザーである自動車業界など川下産業との連携強化が、今後の熱処理技術の進化に欠かせない重要なテーマとなっている。



装置の高度化などが求められる熱処理現場

モノづくり